２０２２年度　冒険学校 まふゆのキャンプ振り返り

2022 冒険学校まふゆのキャンプ村長・自然文化誌研究会運営委員　贄田隼人（だにえる）

まずは今年も二泊三日のまふゆのキャンプを、大きなケガをすることなく、寒さで体調を崩す子どもやスタッフを出すこともなく、終えられたことを嬉しく思います。２年前の１２月に、スタッフ３人で集まり、どうやったら冒険学校を続けることができるのかを話していたことが懐かしい。いまだコロナ禍は続いていますが、参加者もスタッフもそれぞれが備え、冒険学校への想いを胸に参加してくれているからこそ、こうやって活動を続けていくことができ、本当に感謝しています。

今回は、参加者の全員が夏の冒険学校か、まふゆのキャンプの経験者で、キャンプ場での過ごし方はみんな慣れたものでした。自分たちでテントを張り、寝袋を３重にして寝床の準備を終えると、たき火に集まったり、工作を始めたりとしていました。じっとしても寒いだけなので、体を動かす遊びも多かったです。折り紙で紙飛行機を作ったかと思ったら、キャッチボールのように飛ばしあったり、さっきまで杉の葉を集めていたカゴでキャッチしようと走り回ったりと様々な発想で楽しんでいました。子どもたちだけでなく、スタッフも一緒になって楽しんでいて、特にロープで大縄跳びをしていたときは、すぐに引っ掛かってしまうスタッフの方がむきになっていました（誰もケガをしなくて本当に良かった…）。

キャンプ場以外のプログラムを充実させることができたのも良かったです。ヘリポートでの星空観察や、村民の加藤源久さんを講師に野鳥観察、こすげの湯からキャンプ場までナイトハイクなど、小菅の冬をキャンプ場の外にも出て、味わってもらうことができました。昨年は感染症対策優先で、スタッフにも余裕がなく、課題としていた部分なのでそうした点から見ても、のびのびと、それぞれのやりたいことに取り組むことのできた三日間だったと思います。

今回で３回目の村長でしたが、やる度に楽しくなっていくのは支えてくれるスタッフあってことのことだと改めて思います。自分自身の何とかしようと気負いや不安、焦りを自覚し、それを手放して、色々な場面で任せることができると、子どもと楽しむ余裕が生まれました（今回は本当に子どもの笑顔がたくさん見られて楽しかった）。その余裕は、何度も小菅に来てくれて、一緒に活動をしたという事実と信頼があるから。学業の合間で来てくれた大学生スタッフ、遠方から毎回来てくれる社会人スタッフ、事前準備や後片付けまで参加してくれたスタッフたちへの感謝でこの振り返りを終わりにします。

この事業は令和４年度国土緑化推進機構「緑と水の森林ファンド」の助成を受けて開催しました。

＜活動の様子と参加者からの声＞

寺井健人くん（小学校４年生）

【感想】

今回のキャンプでは靴とズボンが焚き火の火でとけるという経験をして、熱の力を体感しました。
またいつもではできない〝火を自分の身長まで大きくする〟〟紙飛行機を全力で飛ばす〟ことができてよかったです。充実した３日間で楽しかったです。

（スタッフの森住芽衣さんが作成してくれたイラストです）